

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 39人

② 算数 39人

5 留意事項

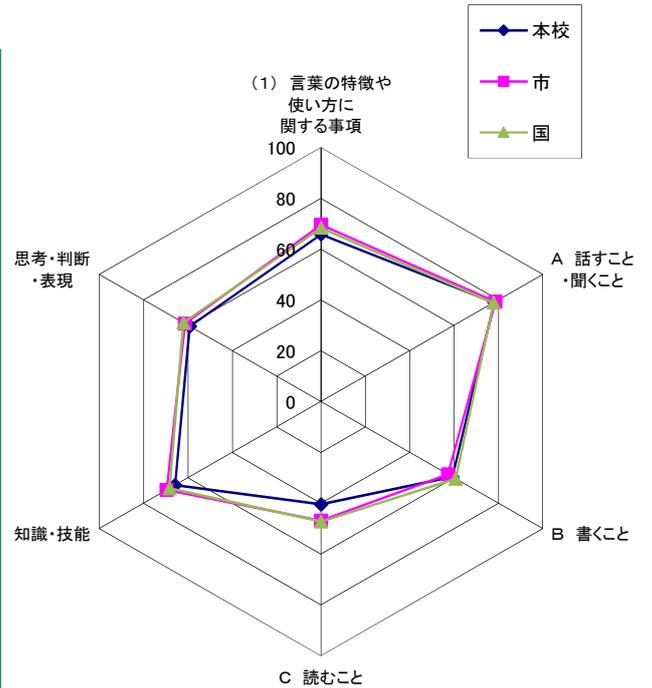
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	78.1	78.7	77.8
	B 書くこと	59.2	57.3	60.7
	C 読むこと	40.4	46.9	47.2
観点	知識・技能	65.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	59.2	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

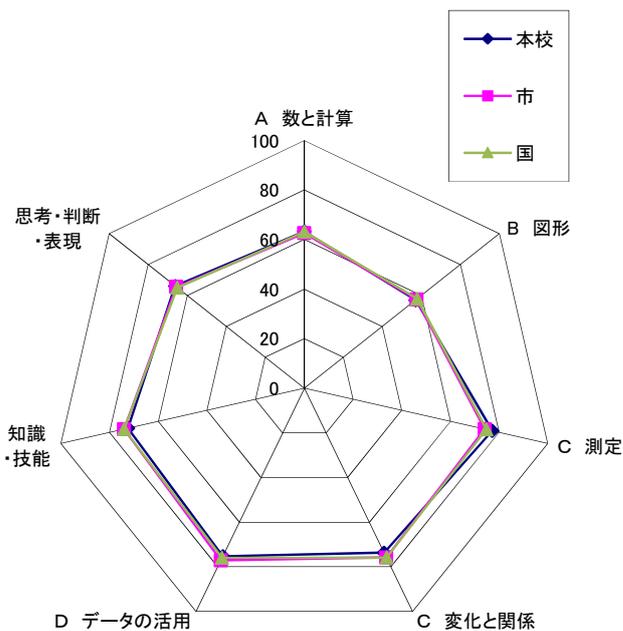
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>○文の中における主語と述語との関係を捉える問題の本校の正答率は78.9%であり、全国の平均との比較で11.9ポイント、県の平均との比較で7ポイント高い。</p> <p>●思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題の本校の正答率は76.3%であり、全国の平均との比較で11.2ポイント、県の平均との比較で9.9ポイント低い。</p>	<p>・既習漢字を正しく書く問題では無回答率が高かった。上中央小漢字検定や朝の学習、家庭学習で繰り返し学習に取り組む定着を図っていく。</p> <p>・語彙の意味や語句の使い方について理解を深め、正しく文の中で使えることができるよう、日常的に国語辞典を活用したり短文づくりを行ったりして理解を深めていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>○目的や意図に応じ、資料を使って話す問題の本校の正答率は86.8%であり、全国の平均との比較で5.8ポイント、県の平均との比較で5.9ポイント高い。</p> <p>●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の本校の正答率は73.7%であり、全国の平均との比較で3.8ポイント、県の平均との比較で3.1ポイント低い。</p>	<p>・話すこと聞くことの学習では、聞き手に伝わるように「始め」「中」「終わり」の構成を考えて話せるよう指導をしていく。</p> <p>・テーマを意識してスピーチの原稿を書く活動を取り入れ、向上を図る。</p>
B 書くこと	<p>○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の本校の正答率は68.4%であり、全国の平均との比較で11.8ポイント、県の平均との比較で9ポイント高い。</p> <p>●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の本校の正答率は50.0%であり、全国の平均との比較で14.8ポイント、県の平均との比較で12.0ポイント低い。</p>	<p>・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことができるよう指導していく。</p> <p>・文字数の条件に合った文を書くために、必要なことを整理し要点をまとめ文を書くことができるよう日常的に指導していく。</p>
C 読むこと	<p>●目的を意識して、中心となる話や文を見つけて要約する問題の本校の正答率は18.4%であり、全国の平均との比較で11.3ポイント、県の平均との比較で10.1ポイント低い。</p> <p>●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の本校の正答率は28.9%であり、全国の平均との比較で5.5ポイント、県の平均との比較で4.2ポイント低い。</p>	<p>・提示された複数の条件を満たして文を書く力を身に付けるために、必要な情報を適切に取り出すことができるよう指導していく。</p> <p>・朝の学習を活用し、文章と図表とを結び付けて文を読むことを繰り返し学習し、力を付けていく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.2	62.6	63.1
	B 図形	57.0	57.5	57.9
	C 測定	77.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.7	75.8	75.9
	D データの活用	75.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.2	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○小数を用いた倍について説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題の本校の正答率は55.3%であり、全国の平均との比較で3.8ポイント、県の平均との比較で4.8ポイント高い。 ●商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算する問題の本校の正答率は50.0%であり、全国の平均との比較で5.5ポイント、県の平均との比較で2.5ポイント低い。	・今後も上央小計算検定などを中心に基本的な計算の定着を図っていく。 ・家庭学習や朝の学習等でも繰り返し文章題の学習に取り組めるようにし、場面から立式したり、順序よく計算したりできるようにしていく。
B 図形	○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる問題の本校の正答率は73.7%であり、全国の平均との比較で1.2ポイント、県の平均との比較で3.2ポイント高い。 ●三角形の面積の求め方について理解しているかを問う問題の本校の正答率は50.0%で、全国の平均との比較で5.1ポイント、県の平均との比較で2.1ポイント低い。	・既習内容を復習したり、図形の特徴や性質について整理したりして定着を図っていく。 ・具体物を用意し、児童一人一人の理解が深まるよう指導の工夫をしていく。
C 測定	○条件に合う時刻を求める問題の本校の正答率は94.7%であり、全国の平均との比較で5.5ポイント、県の平均との比較で5.4ポイント高い。 ○測定の領域においては、すべての問題で全国や県の正答率を上回っていた。また、問題の形式も様々であったが、正答率が高かった。	・記述式の問題においては、無回答が0と自分の既習事項を使って自分の考えを書こうする力が身に付いてきたことが伺える。今後も授業では、自分の考えを表現したり友達と話し合ったりする活動を取り入れていく。
C 変化と関係	○速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題の本校の正答率は55.3%であり、全国の平均との比較で0.5ポイント低いが、県の平均との比較では1.7ポイント高い。 ●速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題の本校の正答率は81.6%であり、全国の平均との比較で3.5ポイント、県の平均との比較で2.9ポイント低い。	・速さの問題を苦手としている児童が多いことが伺える。問題文を正しく読み取れるようにするために、問題の様子を絵や図で示して文意を理解できるようにする。そのうえで立式できるよう繰り返し指導していく。
D データの活用	○帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の本校の正答率は55.3%であり、全国の平均との比較で3.3ポイント、県の平均との比較で3.5ポイント高い。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題の本校の正答率は84.2%であり、全国の平均との比較で6.5ポイント、県の平均との比較で5.6ポイント低い。	・グラフを正しく読み取り、整理したり分析したりする力に課題が見られる。算数の学習だけでなく、国語や社会の学習でもグラフや表を読み取ったり、分析したりする学習を意図的に設け、正しく読み取る力が身に付くよう、繰り返し指導していく。

宇都宮市市上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は89.8%、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」に対する肯定的な回答は84.6%となり、県・全国平均を上回った。さらに、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的な回答は92.3%で県・全国平均を上回った。これは、登下校や縦割班での活動、委員会活動等、児童が様々な場面で役割を任せられる機会を多く設けていることや、それに対して児童一人一人が責任をもって活動に取り組み、協調性や自己肯定感が高められているからだと考えられる。今後も、互いに協力し励まし合いながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教員間で共有し、励ましたり褒めたりすることで、困難にも諦めずに挑戦していこうという強い気持ちをもてるようにしていく。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な回答は92.3%で、県・全国平均を10ポイント以上上回った。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていますか」の肯定的な回答は100%で、これも県・全国平均を上回っている。これは、各教科においてペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えを表現したり深めたりする経験を積んできた成果である。また、友達の考えを共感的に受け止めたり受け入れたりする姿勢が身に付いていると考えられる。今後も主体的な話し合い活動を積極的に行えるよう指導していく。

○「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」に対する肯定的な回答は74.3%で県・全国平均を10ポイント以上上回った。また、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていましたか」の回答のうち、「先生・友達・家族に聞いた」「自分で調べた」の平均がいずれも県・全国の平均を上回り、「そのままにした」と回答した児童は、県・全国の平均を8ポイント近く下回っている。これは、日ごろから家庭学習に取り組むことで、進んで学習に取り組む姿勢が身に付いてきたことが伺え、大きな成果であると考えられる。また、わからないことをそのままにせず解決しようという学習への意欲が高いことも感じられる。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」に対する回答で、「月1回未満」と回答した児童は48.7%で県・全国より20ポイント以上高かった。また、「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度しようしていますか」に対する回答でも「月1回未満」と回答した児童は53.8%と県・全国より20ポイント以上高かった。今後は、どの教科でも一人1台端末を効果的に活用し、情報収集を行ったり意見交換を行ったりする授業を展開していけるようにしていく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを 目指して～はっきり・じっくり・すっきり の学習過程の工夫～	上央小スタンダードを活用し、はっきり・じっくり・すっきりを意識した授業を展開する。具体的には、グループやクラス全体での話し合いの際には、意見や考えをもつための視点を示し、何について考えを深めるとよいかを明確にして主体的・対話的で深い学びを実現できるようにする。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な回答率が高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
観点別に見ると、国語、算数ともに思考・判断・表現の平均は県・全国とほぼ同じかそれを上回っているのに対し、知識・技能は県・全国を下回っている。国語では、選択式や短答式の問題の方が記述式の問題に比べ、正答率が低い。	基礎・基本の確実な習得	上央小漢字・計算検定や朝の学習時間を活用し、基礎基本の確実な習得を目指して繰り返し学習に取り組んでいく。